９　実態把握からの個に応じた指導

児童生徒の教育的ニーズの多様化が進み、「個に応じた指導」の必要性が高まっています。全ての児童生徒の確かな学力の育成のため、児童生徒の実態を適切に把握し、個に応じた指導の充実を図りましょう。

１　適切な実態把握のポイント

（１）目的・視点を明確にし、計画的に見取る

○「何のため」、「何を」見取るのか目的と視点を決める
○指導と評価の一体化を図り、計画的に見取る
○ノート、ワークシートを工夫して、効率的に見取る

（２）効果的な机間指導・声かけを行う

○つまずきを早期に発見し、適切な支援に繋げる
○児童生徒の目線で接し、丁寧に指導、説明する
○気になる児童生徒には、１時間に必ず１回は、声をかける

（３）埼玉県学力・学習状況調査を活用する

○児童生徒個々の学力レベルや学力の伸びを把握する
○学習方略や非認知能力にも着目し、気になる児童生徒は配慮する
○「コバトンのびのびシート」を活用する

児童生徒が、どんなことにつまずいているのか、どんな支援が効果的なのかを把握することが「個に応じた指導」の第一歩！
いろいろな面から児童生徒を見てみよう！

２　個に応じた指導の充実

（１）指導体制の工夫・改善

○個に応じた指導計画を立案する
○ティーム・ティーチングによるきめ細かな指導を実現する
○少人数指導による習熟度別の指導を実施する

（２）指導方法の工夫・改善

○個別学習・グループ学習によるきめ細かな指導を工夫する
○児童生徒の興味・関心等に応じた課題設定を行う
○学習用端末（ICT）の効果的な活用を行う
○補充学習・家庭学習の工夫を図る

実態把握をもとに、予想されるつまずきへの支援策を整えよう！
発展的な課題や、探求的な課題で、上位層をより伸ばす指導も重要だよ！

指導方法の具体例

★つまずきを支援するヒントカードの作成　　★発展的な課題や、選択問題の作成
★学習用端末を活用し、個々の進度や習熟度に合わせた学習時間、家庭学習の実施
★定期テスト前の補充学習、質問会の実施（中学校）　★定期テスト（単元テスト）の振り返り
★児童生徒の学びの調整力の育成（見通しの持ち方、主体性を引き出す、効果的な振り返り）